



八日市まち協だより

ようこそ

八日市ふるさと絵屏風の世界へ

by 八日市地区まちづくり協議会
まち鉄プロジェクト



8月11日(木)～15日(月)まで開催しました「ようこそ八日市ふるさと絵屏風の世界へ」にたくさんご来場いただきましてありがとうございました。

コミセンのホールを八日市の街に見立てて、御代参街道と八風街道を再現してみました。今回が初めての企画でしたので、至らない点も多かったかと思いますが、ご容赦ください。

ご年配の方からは、当時を懐かしむ多くの感想をいただき、また、ご家族でご来場の方からは親や祖父母から聞いた、昔の八日市の街を絵屏風と写真を通じて観ることが出来たなどの感想をいただきました。

所々に残るふるさと絵屏風の風景を、ぜひ散歩やウォーキングで見つけてもらえればありがたいと思います。

まち鉄プロジェクト
リーダー 山下勝司

動画をYouTubeにアップしました。
こちらからご覧ください。

<https://youtu.be/gyAKo6iyq-8>



協力・提供

- 白黒写真：東近江市立八日市図書館
- カラー写真：高島春男さん
- 映像データ：中根厚志さん
- 街並み再現図：森野吉男さん
- 映画「ガチャコン！」：
近江鉄道映画製作実行委員会

ぽっぷのひろば



子育て支援PJ ポップ八日市のみなさん
によるパネルシアター

八日市つながりPJ



好評の「はちのひカフェ」。皆さん楽
しみにされています。

えんめい短大



笑い与健康づくりについて考えました。

人権協 人権のミニ講座



人権というと堅苦しいことのようにとらえが
ちですが、ミニ講座などで少しずつでも人
権について考えてもらうことが大切です。

からだ元気講習会



からだ元気講習会は、八日市地区内の東
近江市健康推進員4人さんから料理講習
を受けました。

楽しく

学んで

活いきいき 動こう

ちやいんどネット 学校連絡会



子どもたちの学校での様子などを、箕作
小、北小の校長先生にお聞きしました

防犯自治会



毎月1回の防犯パトロール。7月は東本
町エリアを巡回しました。

ヨガ



ヨガ教室は午前のヨガレッチ教室と夜ヨ
ガ教室の2講座を開設しています。

ネットでポンポイ



東近江で考案されたネットでポンポイ。手
にの代わりにネットで行います。ルールは
バレーボールと同じで、突き指の心配なし。

みんなの卓球クラブ



週2回、毎回20人近くの方に卓球を楽し
んでもらっています。参加は自由。9月から
1回(日)100円いただきます。

近江大津宮への遷都や、異母弟の大海人皇子との額田王を巡る恋の確執といったエピソードが多く残る天智天皇の治世の時代。中国大陸では618年、隋に替わって唐が成立した。朝鮮半島では高句麗、新羅、百済が鼎立し、相互に影響を及ぼし合っていた。三国の中でも百済は倭との関係が深く、百済の対高句麗戦にも倭が百済へ援軍を派遣したこともあった。その後、百済は唐・新羅連合軍の前に滅亡した。百済再興の援軍を支持して九州まで進軍していた斉明女帝が急死し、後事は中大兄皇子（後の天智天皇）に託された。

663年、滅亡した百済の皇太子を押し立てて再興を支持する倭軍は、唐・新羅同盟の大軍と白村江（現在の錦江河口付近）の河岸で対峙した。

倭軍 3万7千 に対して、唐軍 13万 新羅軍 5万（計18万）。二日間の戦いの結果は、陸・海共に倭軍の大敗であった。この戦は、倭軍に一万余の戦死者を出した割には語られることの少ない、不思議な戦いである。

疑問点と対応する私見を列挙してみました。諸

あれやこれや

其の二十

天智天皇と白村江の戦いの巻

兄の考えは如何でしょう。

- ①大唐帝国と彼我の力の差を知らなかったのか。
 - 遣隋使を介して唐との文化力・軍事力の差を熟知していた。
 - 戦いの真の意図は地方豪族の力を削ぎ、中央集権化を進めることであった。
- ②破れた天智天皇は勝敗についてどのように予測していたのか。
 - 惜敗迄であれば、百済を属国化する予定であったが、予定が潰えた。
 - 思わぬ大敗により、唐の侵攻に怯え、内陸の近江大津宮へ遷都した。
 - 大敗を隠蔽する為、長期間皇位に即かなかった。

天智天皇は朝鮮半島の足掛かりを失い、中央集権化も志半ばで672年に崩御し、壬申の乱が勃発。大海人皇子が大友皇子に勝利、即位して天武天皇となった。

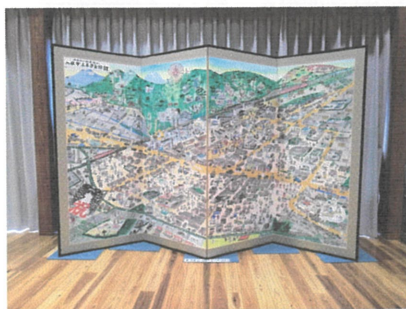
森野吉男さん

片言隻句

広報委員になったのを機に、「まち協だより」のバックナンバーをコミセンで見せていただき、私にとってはいろんな発見がありました。「ふるさと絵屏風」は歴史文化プロジェクトとして高齢者から中学生まで、多くの人たちが関わってできたことや、「十一ある各種プロジェクト」の活動内容もわかりました。

広報委員になったのを機に、ビルの再生は別の意味で驚きでしたが、三月号の記事でその事情を知りました。残したいと思う人がいてはじめて、風景は残っていくのだと思いました。

「ふるさと絵屏風」は、過去の八日市の姿を思い出させてくれますが、今の子供たちにとっては現在の姿がふるさととの姿でしょう。できるだけ豊かなふるさととの姿を心にとどめてほしいものです。豊かなふるさと、持続可能な八日市を目指して活動していらっしゃる様々なプロジェクトについて知れたのは、広報委員になったお陰だと思いました。



荒川貴美代